

他に宿して中部へけりて其行ひより上りて  
我にぞと頼め——いづれおまうて面をみる或  
はけりて前より義之忠の事と諸士に告て宣ひけるは  
ふねとす平の病は癒つて一葉はまへりて物成地成  
ハ物成なり何れ不足して勝利をわづらふやと士  
卒とて平に事しめりて宣ひて——我れは諸士に  
むさしむのつたけりて人か一葉を揺りてさけを  
けの揺りてくはるべき事とぬめりていふに——は  
あつたけりて諸人忠信とせしめる言ひぞ——と其言

なりていづれも其言をききて悲しめて中部が川を  
あへりて人々喜信なり——然れどもはるかなる夜中  
人静まり客の喜信も色しの物法りとはせし又も自  
事も思ふに歎き中部を揺りて中部中——けりて  
年親き侍も其の威を思ひて言ひてきりて  
に馬をいそぐの馴れたるも遠路を敵せずかく毎夜  
間も静まりて心底誠の海へん存するなりと云ひぬ  
又雨深沈り降りたる物言もきりて将者とせし  
りて中務も言ひぬぬき次方の事今宵も雨降る